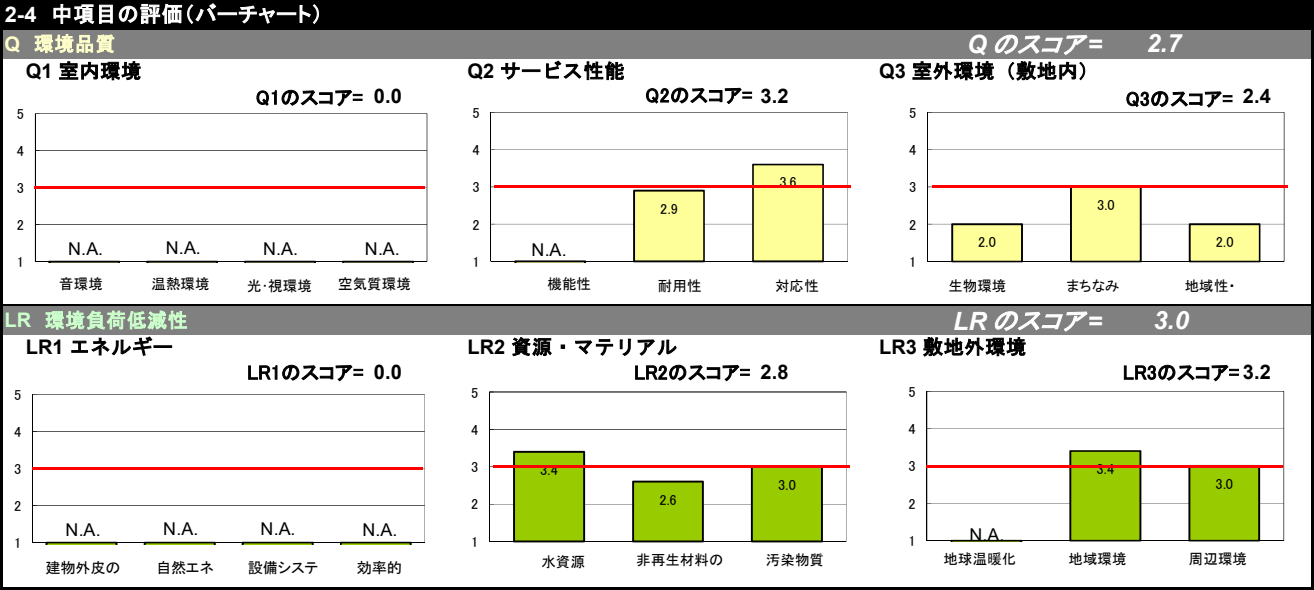
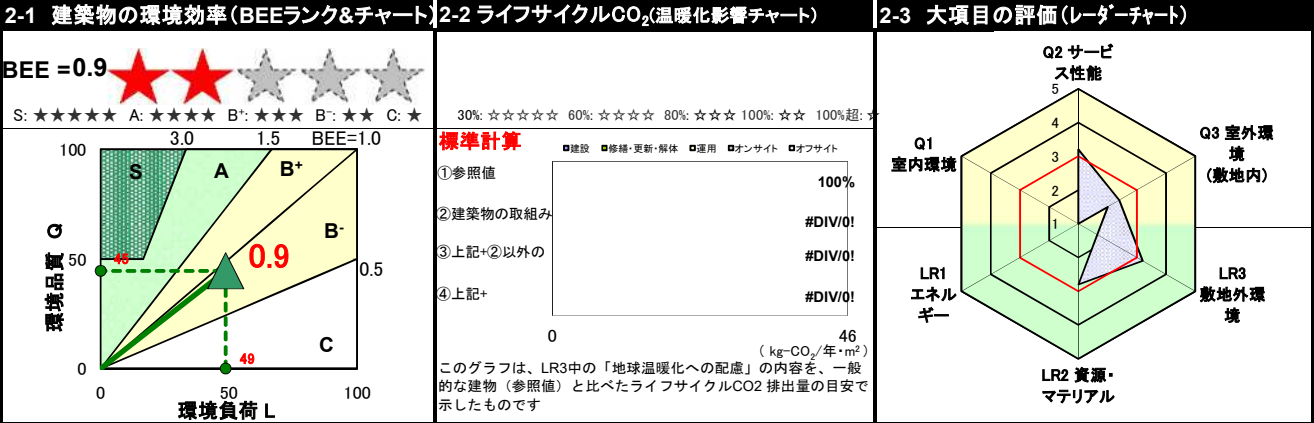


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.5)

1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	株式会社トレードトラスト浜松シェアロジベース	階数	地上2F		
建設地	静岡県浜松市中央区下石田町1150	構造	S造		
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	30 人		
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)		
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2025年12月 予定	評価の実施日	2025年1月28日		
敷地面積	12,489 m ²	作成者	松井 浩光		
建築面積	3,612 m ²	確認日	2025年1月28日		
延床面積	5,354 m ²	確認者	松井 浩光		



3 設計上の配慮事項		
総合	節水機器の採用やLED照明の採用、燃焼機器の不使用などにより、環境に配慮している。また植栽の計画により、良好な景観を形成している。	その他 特になし
Q1 室内環境 対象外	Q2 サービス性能 更新必要間隔の長い内装材を使用している。また階高が3.9mあることで、ゆとりのある空間づくりを可能にしている。	Q3 室外環境(敷地内) 植栽により良好な景観を形成しており、また暑熱環境を緩和している。
LR1 エネルギー 対象外	LR2 資源・マテリアル LGS+PBにより、躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっている。	LR3 敷地外環境 自転車用や大型車両用を含め、十分な量の駐車スペースを確保している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

1. 建物概要									
建物名称	株式会社トレードトラスト浜松シェアロジベース新築工事				BEE	0.9	BEEランク	B-	★★
2. 重点項目への取組み度									
重点項目	得点※/満点		取組み度				評価		
”ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進 (Global Warming)	3.5	/5	    				ふつつ		
”災害に強いしずおか”の形成 (Disaster)	2.8	/5	    				がんばろう		
”しずおかユニバーサルデザイン”の推進 (Universal Design)	3.5	/5	    				ふつつ		
”緑化及び自然景観”の保全・回復 (Nature)	2.7	/5	    				がんばろう		
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示 します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例	よい 4 点以上		ふつつ 3 点以上		がんばろう 3 点未満	
3. 重点項目についての環境配慮概要									
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。					内訳対応項目				
”ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進(Global Warming)					得点		3.5		
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④更新必要間隔の長い内装材を用いている。(床:塩ビシート 20年)				Q-1	2	2.1	2.1.2	① 外皮性能
					Q-1	3	3.1	3.1.3	② 昼光利用設備
							3.2	3.2.1	③ 昼光制御
					Q-2	2	2.2	2.2.1	④ 躯体材料の耐用年数
							2.2.2	2.2.2	⑤ 外壁仕上げ材の補修必要間隔
							2.2.3	2.2.3	⑥ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔
							2.2.4	2.2.4	⑦ 空調換気ダクトの更新必要間隔
							2.2.5	2.2.5	⑧ 空調・給排水配管の更新必要間隔
							2.2.6	2.2.6	⑨ 主要設備機器の更新必要間隔
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑥敷地内に緑地を確保し、暑熱環境を緩和している。				Q-3	1			⑤ 生物環境の保全と創出
					3	3.2		⑥ 敷地内温熱環境の向上	
■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) 評価対象外				LR-1	1			⑦ 建物外皮の熱負荷抑制	
					2			⑧ 自然エネルギー利用	
					3			⑨ 設備システムの高効率化	
					4	4.1		⑩ モニタリング	
						4.2		⑪ 運用管理体制	
■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪自動水栓などの節水装置を用いている。 ⑫LGS+PBにより、躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっている。				LR-2	1	1.1		⑪ 節水	
						1.2	1.2.1	⑫ 雨水利用システム導入の有無	
							1.2.2	⑬ 雑排水等利用システム導入の有無	
				2	2.1			⑭ 材料使用量の削減	
					2.2			⑮ 既存建築躯体等の継続使用	
					2.3			⑯ 躯体材料におけるリサイクル材の使用	
					2.4			⑰ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	
					2.5			⑱ 持続可能な森林から産出された木材	
					2.6			⑲ 部材の再利用可能性向上への取組み	
				3	3.1			⑳ 有害物質を含まない材料の使用	
					3.2	3.2.1		㉑ 消火剤	
						3.2.2		㉒ 断熱材	
						3.2.3		㉓ 冷媒	
■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮隣接間隔の工夫など、風下となる地域への配慮をしている。				LR-3	1			⑭ 地球温暖化への配慮	
					2	2.2		⑮ 温熱環境悪化の改善	
”災害に強いしずおか”の形成(Disaster)					得点		2.8		
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰電源設備、精密機器が浸水しないように配慮している。				Q-2	2	2.1	2.1.1	⑯ 耐震性
								2.1.2	⑰ 免震・制振性能
							2.4	2.4.1	⑱ 空調・換気設備
								2.4.2	⑲ 給排水・衛生設備
								2.4.3	⑲ 電気設備
							2.4.4	⑲ 機械・配管支持方法	
							2.4.5	⑲ 通信・情報設備	
”しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)					得点		3.5		
	■サービス性能対策 (⑯機能性・使いやすさ/⑰心理性・快適性/⑱空間のゆとり) ⑱階高が3.9mで、ゆとりのある空間をつくっている。				Q-2	1	1.1	1.1.3	⑯ ⑲ ユニバーサルデザイン計画
						3	3.1	3.1.1	⑲ 階高のゆとり
								3.1.2	⑲ 空間の形状・自由さ
					Q-3	3	3.1		⑲ 地域性への配慮、快適性の向上
”緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)					得点		2.7		
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉑まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) ②周囲の建物と調和した色彩を採用したり、植栽により良好な景観を形成したりしている。				Q-3	1			⑤ 生物環境の保全と創出
						2			㉑ まちなみ景観への配慮
						3	3.2		⑥ 敷地内温熱環境の向上
	■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮緑地面積を確保し、暑熱環境を緩和している。				LR-2	2	2.5		⑫ 持続可能な森林から産出された木材
					LR-3	2	2.2		⑮ 温熱環境悪化の改善